平成３０年度第１回鹿沼市総合教育会議　議事録

１　日　時

平成３０年１０月５日（金）　午後２時０５分～午後２時５５分

２　場　所

鹿沼市役所特別会議室

３　出席した委員

市　　長	佐藤　信	教育長	高橋臣一
教育長職務代理者	鈴木　泉	教育委員	中西泉美
教育委員	齋藤　正	教育委員	倉松俊弘

４　出席した事務局職員

(1) 総　務　部

部　　長	渡辺克明	総務課長	糸井　朗
総務課	水瀬俊彦	企画課長	福田浩士

(2) 教育委員会

教育次長	上林浩二	教育総務課長	髙橋年和
教育総務課	斎藤史生	教育総務課	安良岡　修
学校教育課長	駒場秀明	学校教育課	湯澤正弘

(3) こども未来部

部　　長	石川佳男	子育て支援課	半田和之
子育て支援課	安生智子		

５　傍聴者

なし

６　決定した事項

(1) 教育ＩＣＴ環境整備については、ＩＣＴを導入した他市町村の実績を検証しながら、今後の予算編成において検討していくことにした。

(2) 総合教育会議の庶務は、教育委員会事務局が所管し、鹿沼市総合教育会議設置要綱の一部を改正することにした。

７　会議の概要

(1) 開　会（進行：糸井総務課長）

(2) 挨　拶

ア　市長挨拶

今年度１回目の総合教育会議に出席をいただき、ありがとうございます。

今年は市制施行７０周年ということで、様々な事業に取り組んできたところです。４月に開催した春の彫刻屋台祭りでは、大いに鹿沼をアピールすることができたと思っています。そして、いよいよ明日から、鹿沼秋まつりが開催されます。台風が接近していますが、天気予報によると、それるようなことを聞いています。一方で、気温が３０度を超える予報が出ているので、暑さと風の心配をする中での開催となりそうです。

子供の教育という点から言うと、子供たちに故郷への愛着を小さい頃から持ってもらえるように、事業に取り組んでいかなければなりません。そういう意味で、祭りの持つ魅力はとても大きいです。子供のときに祭りに関わり、触れることで、子供たちの身体にしっかり刷り込まれていくはずです。若い世代が市外に流出することは、避られない事実でありますが、故郷に戻って

くる大きな要因は、幼い頃に体験した故郷への思いが大きく影響すると思います。そのような意味では、明日からの秋祭りは、子供たちにとって記憶に残るような祭りになることを期待しています。

本日は、来年度の重点的教育施策について、協議させていただく予定ですので、御協力をよろしくお願い申し上げます。

イ　教育長挨拶

本日は、今年度１回目の総合教育会議を開催いただきまして、ありがとうございます。

この総合教育会議は、平成２７年の新教育委員会制度に伴い創設され、今年で４年目となりました。制度創設以降、児童生徒の生命及び身体に被害が生じるような事件は発生せず、また緊急の総合教育会議を招集することもなく、本日を迎えることができました。これは、市長部局と教育委員会の危機意識の共有があったからであると思います。

さて、今年は、市制施行７０周年を迎える年であり、教育委員会事務局は、「鹿沼春の屋台まつり」の開催や「出張！なんでも鑑定団」の公開収録を実施しました。そして今後実施予定である、１５年前の小中学生約８千人が手紙を入れた「タイムカプセル開封式」や高校生のまちづくりアイデア発表会となる「高校生アワード」など、多くの記念事業を担っています。また、今年度は、若者の集いの場となる「音楽スタジオ」の開設や、粟野Ｂ＆Ｇプールのリニューアル、北小学校の大規模改修への着手、その北小学校を除いた全ての小中学校普通教室へのエアコン設置が完了するなど、様々な取組を進めてまいりました。これらの取組が、まさに総合教育会議で策定した本市の「教育大綱」の基本理念である「学びから未来をひらくひとづくり」につながっているものと実感しております。

近年の教育行政は、福祉や子育て、地域振興など一般行政との緊密な連携が重要になってきており、市長部局と教育委員会の相互の連携は不可欠なものになってきています。この連携を強化することが、本市の様々な課題解消につながり、より良い鹿沼市が築いていけるものと期待しております。

教育委員会としても、本市教育行政の推進に努めてまいりますので、引き続き、御支援をよろしくお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

⑶ 報　告

赤ちゃん交流体験事業の拡充状況について

赤ちゃん交流体験事業の拡充状況ついて、市長から教育委員会に対し、報告があった。

＜市長からの報告の内容＞

本市では、少子化対策の一環として、昨年度から、小中学生が、直接赤ちゃんと触れ合い、命の尊さなどを学ぶ「赤ちゃん交流体験事業いちご未来ふれ愛プロジェクト」を実施しております。

昨年度、この会議において、事業拡大について協議をいただき、おかげをもちまして本年度は中学校９校、小学校４校に拡大して実施する予定となっております。

本日は、事業の中間報告をさせていただきます。事業に参加した児童・生徒はもとより、保護者、学校の先生からも、大変御好評をいただいており、

アンケート結果からも高い事業効果が示されております。
　詳細につきましては、こども未来部から報告させていただきます。

　事業の詳細について、資料１に基づき、事務局（石川こども未来部長）が説明した。

＜赤ちゃん交流体験事業に対する教育委員会の意見等＞

中 西 委 員　少子化は深刻な問題である。交流した生徒が、大人になるまで時間がかかるので、結果が出るのが先になるが、非常に有意義な事業だと思う。他にも様々な対策を取っていると思うが、鹿沼市の今後の出生数は見込めるか。

＜事務局の説明＞

　出生数については、全国的な問題であり、増加に転じるのは難しいと言われている。鹿沼市においては、今年度の出生数は、妊娠届出書の提出の見込みなどから、６００人を割り込むと予想しています。

　この状況において、鹿沼市では、出産から高校卒業まで、長期的な子育て支援策を展開していく中で、少しでも出生数が増加に転じるよう努力していく。

　とりわけ、経済的な支援として、国の児童扶養手当を支給するほか、子ども医療費についても、中学校３年生まで無償としている。また、遊び場の整備、第三子の保育料の免除等の施策を展開していく中で、他市より優れたところをピーアールし、若い世代の鹿沼市への転入数を増加していきたいと思う。

　市民の方の御意見を聞きながら、事業の拡大を図っていきたいと思う。

倉 松 委 員　この事業は素晴らしいものである。教育委員会において協力できることはあるか。

＜事務局の説明＞

　なるべく子供たちがやりやすい環境の中で、当該事業ができるように、学校との調整を行っていただきたい。

　また、学校の先生で、育休の方がいらっしゃると思うので、ぜひこの事業の場を利用していただきたい。

　そして、様々な機会を利用して、教育委員の皆様から事業のピーアールをしていただきたい。

齋 藤 委 員　大変素晴らしい事業である。事業に取り組んできて、気づいたこと、課題等があったら教えていただきたい。

＜事務局の説明＞

　課題として、実施の時期にもよるが、学校で病欠の生徒が増える時期に開催する場合、赤ちゃんへの感染の心配や児童の参加人数減少により事業を中止せざるを得ないと考えている。生徒の皆様には健康に気を付けていただき、事業に参加できるようにしていただきたいと思う。

　また、学校の地区内で赤ちゃんを探すのが大変である。人口が少ない地区においては他の地区から赤ちゃんを連れてくる必要があるので、日頃から当該事業の周知をする必要があると考えている。

鈴 木 委 員　昨年、日光市の教育委員がお見えになった際に、こども未来部を見学し、感銘を受けていた。非常に有意義な事業だと思う。

＜市長の説明＞
　この事業は、想像した以上に反応が良い。小中学生の情操教育の面で非常に意味のある事業であると考えている。引き続き、皆様の御理解と御支援をいただきながら、この事業をより充実したものになるようにしていきたい。

(4) 協　議

ア　平成３１年度に向けた重点的教育施策の取組について

　平成３１年度に向けた重点的教育施策の取組について、教育委員会から市長に対し、協議があった。

＜教育長からの協議の内容＞
　平成３１年度に向けた重点的教育施策の取組のうち、学習指導要領改訂に伴う教育ＩＣＴ整備について、説明いたします。
　皆様の御承知のとおり、小中学校の新学習指導要領については、平成２９年３月に公示され、小学校においては平成３２年度、中学校においては平成３３年度から全面実施となります。現在は移行期間となっているところですが、新学習指導要領の中で、特に教育ＩＣＴ整備についてのポイントとして、情報活用能力を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質及び能力」と位置づけています。それを踏まえて、小学校におけるプログラミング的思考の育成ということで、プログラミング教育が必修となりました。学校のＩＣＴ環境整備とＩＣＴを活用した学習活動を充実させることについて明記されたことにより、これまで以上にＩＣＴ環境の整備が求められています。
　このようなことから、本日の協議事項といたしまして、学習指導要領の改訂に伴う教育ＩＣＴ整備について提案させていただきました。この後、詳細について教育次長から説明しますので、御協議をよろしくお願いします。

　協議事項の詳細について、資料２に基づき、事務局（上林教育次長）が説明した。

＜教育委員からの補足説明＞
鈴 木 委 員　現在、文部科学省では「主体的・対話的で深い学び」という方針を掲げている。その中で、パソコンを使用してプログラミングを学習し、思考能力を高める。教育の現場では、いかにして深い学びにつなげていくか、と言われているところであるので、ぜひＩＣＴ環境整備について御検討いただきたい。
齋 藤 委 員　資料２−１の５ページに、「校務におけるＩＣＴ活用」について、近年、小中学校の職員の働き方改革について議論されているところである。校務支援ソフトだけでは成果が出ないと思うが、近隣の市町村において導入後にある程度の成果が出ているので、導入に向けて御検討いただきたい。

＜市長の説明＞
　ＩＣＴ環境の整備を図っていくという方向付けがされているので、予算編成時には考慮していきたい。統合型校務支援システムについては、導入した市町村において効果がどれほど上がっているのか把握はしていないが、他市町村の実績を検証をしながら、効果が期待できるものであれば、導入を検討していきたいと考えている。

教育委員会から協議のあった「平成３１年度に向けた重点的教育施策の取組み」については、近隣市町村の実績を検証しながら、今後の予算編成時に検討していくことで、教育委員会が了承した。

イ　鹿沼市総合教育会議設置要綱の一部改正について

鹿沼市総合教育会議設置要綱の一部改正について、資料３に基づき、事務局（渡辺総務部長）が説明した。

＜教育委員からの意見＞

倉 松 委 員　教育委員会事務局が、総合教育会議の事務全般を所管するが、市長部局においての総合教育会議の窓口は、総務部総務課でよいか確認したい。

＜事務局の説明＞

総合教育会議の市長部局における窓口については、総務部内に置くことで、引き続き対応する。

鹿沼市総合教育会議設置要綱の一部改正については、原案どおり承認した。

(4) 閉　会